

有床義歯補綴学

後期講義

[講義] 第4学年 後期 必修 1単位相当 10単位

《担当者名》 教授 / 豊下 祥史 toyosita@ 准教授 / 川西 克弥 kawanisi@

【概要】

部分的な歯の欠損を有する顎口腔系の形態と機能に関する基礎的事項の概念を理解し、治療的又は予防的な意義を有する部分床義歯補綴のあり方を学習する。さらに、歯の欠損を生じたことによる患者の主訴を解消又は改善するための部分床義歯補綴を行うための診査、診断、治療計画の立案、製作法を含めた治療法、装着及び装着後の監視・処置などに関する学理と術式を学習する。

【学修目標】

- 部分床義歯の補綴上の位置づけ、役割、及び構成要素について説明する。
- 歯の欠損により生じる種々の現象及びその障害について説明する。
- 機能的咬合系について説明する。
- 咬合の正常像について説明する。
- 部分床義歯に付与すべき咬合について説明する。
- 部分床義歯の支持、維持、把持機構について説明する。
- 部分床義歯装着後にみられる口腔組織の変化とその予防法を説明する。
- 欠損補綴を行うにあたっての診査、診断、治療計画について説明する。
- 部分床義歯を製作するに際しての補綴の前処置とその根拠を説明する。
- 部分床義歯の製作に際して行われる各種印象法について説明する。
- 部分床義歯の設計の原則を力学的、生物学的見地から説明する。
- 欠損補綴の咬合採得に関する注意点を説明する。
- 適正な技工指示書の書き方を説明する。
- 完成した義歯の装着方法を説明する。
- 義歯の使用に関する患者教育について説明する。
- 部分床義歯装着直後及び長期間使用後に生ずる症状とその対処法について説明する。
- オーバーデンチャー、インプラント義歯について説明する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	序論 A.部分的歯の欠損 B.部分的歯の欠損の治療 C.部分的歯の欠損の治療の意義 D.パーシャルデンチャーの特徴 E.パーシャルデンチャーの有害作用	部分的な歯の欠損とこれをもたらす老化因子及び病的因子について、また、部分床義歯補綴の歯科補綴学上の位置づけ、多様性、役割、目的、及び部分床義歯による治療の評価を学習する。 「スタンダード部分床義歯補綴学」P1-11 (E-3-4)-(2)-)	豊下 祥史 川西 克弥
2	診察、検査、診断とインフォームドコンセント	欠損補綴を行うにあたっての診査事項、診査の進めかた、診断法について学習する。さらに、インフォームドコンセントの重要性を学習する。 「スタンダード部分床義歯補綴学」P99-113 (E-3-4)-(2)-)	豊下 祥史 川西 克弥
3	歯の欠損様式と義歯の分類 前処置	部分的な歯の欠損の病態と歯の欠損により生じる障害、歯列の変化、咬合接触の変化、齶蝕・歯周疾患の増悪、咬合位の変化を理解し、顎口腔系機能障害と咬合について学習する。また、歯の欠損の分類、咬合圧支持による分類、咬合支持域による分類及び義歯の目的別分類を学習する。 部分床義歯を製作するに際して咬合位、咬合面形態の修正、歯周疾患に関する前処置、顎堤に関する前処置、支台歯に対して行われるレストシート、ガイドプレーンの形成について学習する。なお、歯冠修復物に施される前処置については、冠橋義歯学の講義を復習する。 「スタンダード部分床義歯補綴学」P31-38, 115-122 (E-3-4)-(2)-)	豊下 祥史 川西 克弥

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
4	パーシャルデンチャーの構成要素 パーシャルデンチャーに加わる力への対応	部分床義歯の構成要素である支台装置、連結装置、義歯床、人工歯、隣接面板の役割及び種類の概要を理解する。 部分床義歯に加わる力と、これに対して義歯の安定をはかるための支持、把持、維持について、また、支台歯と欠損部顎堤の負担能力とともに義歯床と支台歯の連結のあり方について学習する。 「スタンダード部分床義歯補綴学」P39-57 (E-3-4)-(2)-)	豊下 祥史 川西 克弥
5	印象採得	歯根膜と顎粘膜の咬合圧負担能力と被圧変位量の差について理解し、部分床義歯の製作に際して行われる各種印象法について学習する。 「スタンダード部分床義歯」P123-131 (E-3-4)-(2)-)	豊下 祥史 川西 克弥
6	義歯の設計	残存組織に対する為害作用が可及的に少ない部分床義歯の設計を力学的、生物学的見地から考え、義歯設計の手順とサベヤー及びそのアクセサリーの使用方法について学習する。 「スタンダード部分床義歯」P133-150 (E-3-4)-(2)-)	豊下 祥史 川西 克弥
7	パーシャルデンチャーの咬合、咬合採得	咬合の正常像を理解し、部分床義歯に付与すべき咬合を考える。また、下顎運動に関与する筋の形態と機能、及び補綴学のみならず歯科学全般に必要な下顎位と下顎運動に関する用語を理解する。なお、有歯顎、部分無歯顎、無歯顎に拘らず、顎機能の診査には、咬合接触関係、筋、顎関節の単独及び総合的な調査法が採用されるため、個々の診査法はもとより、下顎運動及び咀嚼運動の評価法についての理解が必要である(6年後期までに)。 部分床義歯の咬合採得時における注意点及び部分床義歯の咬合の在り方について学習する。 「スタンダード部分床義歯」P151-166 (E-3-4)-(2)-)	豊下 祥史 川西 克弥
8	フレームワーク	メタルフレーム製作の概要と口腔内における試適について学習する。 「スタンダード部分床義歯補綴学」P167-174 (E-3-4)-(2)-)	豊下 祥史 川西 克弥
9	支台装置	部分床義歯の支持機構についての考え方とレストと義歯床の役割について理解する。 部分床義歯の把持機構についての考え方と、支台歯、及び義歯床による把持機能について学習する。 部分床義歯の維持機構についての考え方と、直接支台装置と間接支台装置、クラスプ、アタッチメント、テレスコープクラウン、磁性アタッチメントについて学習する。 「スタンダード部分床義歯」P59-79 (E-3-4)-(2)-)	豊下 祥史 川西 克弥
10	連結子と義歯床	部分床義歯における連結装置及び義歯床の意義と役割、所要条件と設計のあり方、種類について学習する。また、金属床義歯の意義と役割及び構造について理解する。 「スタンダード部分床義歯」P81-92 (E-3-4)-(2)-)	豊下 祥史 川西 克弥
11	人工歯排列と蝸義歯	部分床義歯の人工歯排列における注意点及び残存組織と調和する義歯床形態について学習する。さらに、蝸義歯試適の方法と注意点について学習する。 「スタンダード部分床義歯」P175-183 (E-3-4)-(2)-)	豊下 祥史 川西 克弥

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
12	義歯の重合、研磨 義歯の装着、調整	蝕義歯の埋没からレジン填入、重合研磨までの一連の操作方法、材料の取り扱い型について学習する。埋没方法ではアメリカ法、フランス法、併用法について理解する。 完成義歯の装着方法と義歯の使用に関する患者教育について学ぶ。 「スタンダード部分床義歯」P185-196 (E-3-4)-(2)-)	豊下 祥史 川西 克弥
13	義歯装着後の変化と対応	部分床義歯装着直後に生じ易い症状と対処法、長期経過後に生ずる症状と床粘膜面、咬合面の対処法について学習する。 「スタンダード部分床義歯」P197-201 (E-3-4)-(2)-)	豊下 祥史 川西 克弥
14	メンテナンスと義歯修理	義歯装着後の長期的な変化とその対応方法、および義歯の修理方法について学習する。 「スタンダード部分床義歯」P203-214 (E-3-4)-(2)-)	豊下 祥史 川西 克弥
15	義歯用材料 その他の義歯	部分床義歯製作にあたり使用される床用材料、クラスプ及びパー材料、人工歯用材料の種類、それぞれの特徴と取扱い方について学習する。 オーバーデンチャー、インプラント義歯の概要とそれらの特徴について学習する 「スタンダード部分床義歯」P93 - 97, 215-225 (E-3-4)-(2)-)	豊下 祥史 川西 克弥

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

有床義歯補綴学（後期）の評価方法

- ・ [有床義歯補綴学（後期講義）評価方法] 定期試験（筆記試験）（100％）
- ・ [有床義歯補綴学（後期実習）評価方法] 製作物（70％）、実習試験（30％）
- ・ [判定法] 講義と実習を同等に評価し、60点以上を合格とする。
- ・ 定期試験の受験資格は講義、実習それぞれにおいて出席率が70％以上の場合とする。

有床義歯補綴学（前後期）評価方法

- ・ [判定法] 前期評価と後期評価を同等に評価し、60点以上を合格とする。

【教科書】

「スタンダード部分床義歯補綴学」藍 稔、五十嵐 順正 ほか 編 学建書院

「歯科補綴学専門用語集」日本補綴歯科学会 編 医歯薬出版

【参考書】

「歯学生のパーシャルデンチャー」三谷春保、赤川安正 ほか 編 医歯薬出版

「パーシャルデンチャーテクニク」大久保力廣、岡崎定司 ほか 編 医歯薬出版

【学修の準備】

指定した教科書の該当ページを事前に読み、疑問点を整理する（80分）。

実習開始時に前回までの講義・実習内容に係る小テストが実施されるので復習する（80分）。

- ・ 小テスト実施後に解説を行う。

上記の予習・復習に際しては、指定のURLに掲載しているICT教材を活用すること。

【ディプロマ・ポリシーと当該授業科目の関連】

DP 1. 安全で質の高い歯科医療を提供するために必要な専門知識に基づく問題解決能力と患者ケアのための診療技能とからなる専門的実践能力、および医療・医学研究の発展のために必要な情報・科学技術の活用能力を身につけている。

（専門知識に基づいた問題解決能力、患者ケアのための診療技能、情報・科学技術を生かす能力）

DP 2. 「総合的に患者・生活者を支える歯科医療」を提供するために必要な高い倫理観、他者を思いやる豊かな人間性および優れたコミュニケーション能力を身につけている。

（総合的に患者・生活者をみる姿勢、プロフェッショナルリズム、コミュニケーション能力）

DP 3. より安全で質の高い歯科医療を実践し社会に適應する医学を創造していくために生涯にわたって自己および他の医療者との研鑽を継続しながら医療者教育と学術・研究活動にも関与できる能力を身につけている。

(2026年度・歯学部)

(科学的探究、生涯に渡ってともに学ぶ姿勢)

DP 4. 多職種 (保健、医療、福祉、介護) と連携・協力しながら歯科医師の専門性を発揮し、患者中心の安全な医療を実践できる能力を身につけている。

(多職種連携能力)

DP 5. 歯科医療の専門家として、経済的な観点・地域特性を捉えた視点・国際的な視野を持ちながら活躍できる能力を身につけている。

(社会における医療の役割の理解)

【実務経験】

豊下祥史 (歯科医師)、川西克弥 (歯科医師)

【実務経験を活かした教育内容】

部分床義歯補綴学は、無歯顎者の機能的、形態的回復を通じて、患者の全身の健康の維持や回復に寄与する科目であり、学理にのっとった教育内容と実務経験を背景とした経験談が対をなすことで優れた教育成果が期待できる内容となっている。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している